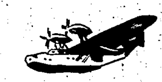


軍需工業動員と產業人の覺悟

陸軍省整備局長　山脇正隆

本夕は時節柄寔に有意義なる催しに御招きに預かりまして有難うございます。顧つても無い好機で御座いますから、一言、御挨拶代りとして申し上げたいと思ひます。

只今、林中佐から話がありましたやうに、日滿支がお互に手を緊いで仲よく進んで行かうと示ふ**帝國の大方針**は、支那に於ける不逞なる抗日侮日と、國際共產黨の魔手のために遂に蘆溝橋の事件を契機として破れて了つたのであります。此の事件が起りまする迄に日本が如何に隱忍に隱忍を重ねましたか、是は皆樣よく御承知の通りで御座いまして、また此の事件が起りまして以後も何とかして事件不擴大、現地解決の方針の下に善處して行かうとした帝國の外交方策に基きまして、軍としましては敵の大兵力が續々と豫想戰場に向つて戰略集中を開始するのも構はず、なほ亦堅固なる陣地を到る處に構築し戰鬪態勢を整へる餘裕を與ふることも意に介せず此の戰略上の重大なる不利を忍びながらも我慢をして來たのでありますが、遂に我が大方針は一擲するの已むなきに至りまして茲に全面的の對支膺懲となり、去る九月四日の臨時議會の開院式に當りましては、**優渥なる勅語を拜しまして**國民一同、恐懼感激に堪へざる所で御座います。此の秋に當りまして、我が帝國に於きましては眞に**擧國一致、固き團結**を以て時難の克服に向つて邁進する形が整ひました事に就きましては洵に御同慶の至りに存ずる次第で御座います。現代の戰爭が昔の戰爭と比べまして非常に範圍も擴大し、其の手段も極めて複雜になつて來ましたことは從來からよく說かれてゐる所でありますが、是がため交戰國はあらゆる手段を講じまして武力戰に於いて勝を制するのは勿論、其他思想の戰ひに於きましても、經濟の戰ひに於きましても、政略の戰ひに於きましても、凡らゆる戰ひに於て勝を得なければ本當の勝利の榮冠は得られなくなつたのであります。即ち茲に眞の**國力戰**になりまして勝利を得るためには國家の凡らゆる力を綜合し、之を統一して、最も有利に使つて行かねばならぬことになつたのであります。即ち**國家總動員**と云ふ事が非常に必要になつたので御座います。なほ其上に莫大なる軍費を要しまする戰爭は、成るべく短い期間に終結を告げさせなければならないと云つたことから、各國とも戰ひを所謂**速戰速決**の主義を採り速に戰爭そのものを打切りたいと云ふことのため、戰爭の頭初から出來る限り大きな力で戰ふことになつて來たのであります。從つて開戰第一着から尨大なる軍需資材の必要が茲に起つて來るのであります。而して其の所要

軍需資材の量は昔の比でない事は皆さん御承知の通りでありますが、之を最も手近かな步兵に就て例を取つて見ましても、日露戰爭の時には重機關銃もなく輕機關銃もない、擲彈筒の如きもありません。鐵兜も冠つて居りません。防毒具もなく步兵砲も速射砲も持つて居りません、數へ上ぐれば各兵器とも昔と今とは非常な相違で御座います。また飛行機の如き、飛行機の落す爆彈の如き、日露戰爭と現代と比べますと戰爭の第一着から必要とする軍需品の數量は誠に隔世の感がある程多量になつて居るのであります。之を何うして補給するかと云ふ事が吾々陸軍の當事者のみでなく國民全體に課せられた最も重大なる問題で御座います。陸軍に於きましては開戰當初に必要なる軍需品は自分で以て貯藏しても居りますし、また官營の工廠に於きましても其の能力を發揮が出來るやうに準備を致しては居るので御座いますが、平時から戰時に要る總てのものを貯藏して置くと云ふことは結極尨大な資材を死藏することになりまして大變な經費を要することとなり、國家の經濟上、到底許さるべきことではないのでありますから、是は開戰と同時に民間の工業力を動員し、是に賴つて行くより外はないのであります。陸軍に於ける**軍動員の仕方**はもう御承知の通りで御座いまして、平時は現役以外は豫後備或は補充兵として置き、また一部の守備をするために必要な者だけに止めて居りまして、戰時になりますと之を動員して尨大なる兵力に編成して戰爭の用に立てなければならぬのであります。只今支那に出動して居りまする兵力と云ふものは皆樣のお近邊の方が召集されました數から推してお考へになつても相當の數に上つて居るといふことは大體お判りになることゝ思ひます。是が皆な新しい裝備をもつて居るのでありますから、是がため必要なる軍需品の數量も非常に多いと云ふことはよくお判りのことゝ思ふのであります、なほ此の時局は支那のみを相手にして短い間に濟んで了へば是に越した幸ひはないのでありますが、誠に

國際情勢は機微で御座いまして時間の進展に依りましては如何なる事態に立ち至るかも分らぬと云ふことを吾々は覺悟して居らねばならないのであります。其の覺悟を以て充分の準備を致しませぬ時には、却つて各國に乘ずる隙を與へると云ふことになつて來るのでありますから、是がためには吾々は一時興奮にのみ醉はずに充分堅忍持久、どつしりと腹を据えてかゝらねばならぬと思ふのであります。即ち皇軍の眞威を發揚しますのに必要なる滓山の

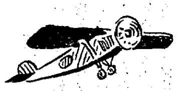
軍需品の補給に就き私共が完全に其の任務を盡しますと同時に、なほ將來の國際情勢の變化に對する構へと云ふものも聢りきめてかゝらねばならないのであります。斯う云ふ譯で御座いまするので去る大正七年に制定せられました

軍需工業動員法を今度の支那事變に適用すると云ふ法律が先達て發布せられた次第で御座います。其の內容に就ての必要なる點は後から長谷川戰備課長よりお話を申上げるのでありますが、先刻、食卓で御主人の御挨拶の中に

「此の時局に處して事業主各位は勞務者と一體となつて奉公の實を擧げられたい」と云ふことが御座いました事は私共誠に御同感で感銘に堪へない次第で御座います。私共陸軍の軍需補給の衝に當つて居ります者は事業家各位と此の軍需工業動員法と云ふ法律に依つて結びつけられる形になりますけれども、それは單に形ばかりでありまして、眞に吾々お互が一體となつて此の國難を克服し、將來の大目標に向つて進まなければならぬのであります。此の工業動員法は單に法律としての形式でありまして、眞に

陸軍の要求しまする所は事業主各位と一體となつて軍のため充分な補給をなし皇軍の威力を遺憾なく發揮せしめ戰爭の大目的を達成せられるやうに切望致す次第で御座います。餘り長くなりますから是を以て御挨拶に代へたいと思ひます。

本文並びに次頁の玉稿は、九月二十一日夜協調會主催の事業主懇談會の席上に於ける山脇局長並に長谷川課長の御講話。文責編輯部にあり。



軍需工業動員法に就いて

陸軍省戰備課長　長谷川基

大變御話が長くなる樣で御座いますから、私は極くかいつまんでざつくばらんな所をお話し申し上げます。只今林君から御說明がありましたが、第一線に於ける我が將兵は絕大なる艱難を冒して勉强して居ると云ふ樣な御說明があつたのでありますが、私の見る處では勉强して居ると云ふやうな一般的な氣持ではなくして何れも皆死を見ること歸するが如くでありまして、決して普通の勉强や努力ではないのであります。從つて、私は人の精銳と云ふことに就きましては日本陸軍は眞に世界一であると考へる、陸軍もさうでありますが海軍も亦然りである。世界一であると云ふ事は陸海共に確信して疑はない。此の精銳無比なる軍隊に向つて充分なる能力を出させると云ふ事は吾々の重大な任務である。先程のお話の通り、聯隊長が眞先に戰死し或は負傷すると云ふ狀況は到る處に於て之を見受けるのであります。日露戰爭の時でも聯隊長が戰死した例は少い、今度は往年と異なり聯隊長、大隊長と云つた樣な幹部が先頭に立つて壯烈な最後を遂げて居るのであります。其の熱烈なる氣魄は實に世界に比すべきものが無いと云ふことを斷言して憚らない。斯かる精銳無比なる將兵に對して何が一番の贈物であるかと云ふならば、それは充分その能力を發揚させる

軍需資材の補給

を彌が上にもすると云ふことより外にないのであります。先づ之のことを御考へ願ひたい、それから林君は極く冷靜に國際關係を御批評なさつたが私などは日本に隙あらば、たとへば少しく戰爭が長引きますとか、或は他の方面に於て思はざる事故が起ると云ふ時には蛇度外國の魔手が動き出して來るものと考へざるを得ない。從ひまして今日の吾々の覺悟と致しましては單に支那を徹底的に屈服せしむる許りではなく此の外力に備へて十全の力を盡すと云ふことを矢張り覺悟して居らねばならぬ。のみならず、是は普通一遍の覺悟ではいけない。非常な確乎たる決心でなければならぬ、斯樣に致しまして用意を整へ、さうして先手先手と打つて事前に日本が備へましたならば野望あるものも屈服し、敵心あるものも挫け斯くして始めて東亞安定の大目的を達成する事が出來るのであります。此の事も何うぞ考御へに入れてもらひたいと思ふ。右の二點は前以て皆さんに充分御含みを願ひたいと思ひます。左樣な次第で御座いますから今日、日本の國民と致しましても決して悲觀や恐怖や、或は取越苦勞と云ふやうなことは一切無用であつて其の前途に赫々たる光輝ある建設事業を目標として進まなければならぬ。泣事なんぞではなく、欣び進んで行くと云ふ所の希望でなければならぬ。積極の方面でなければならぬ。是が心構への最も大事な根據であると思ふ。

今、局長より極めて要領よく、御話になつたのでありますから私などがそれを叉敷衍して長く申す必要はない。それに今日は時間も遲く御座いますから極くかいつまんで二、三の事を申上げ、また御批評も願ひ、御援助も願ひたいと思ふのであります。

其の第一點は急速に大量なる軍需品を整備すること、さうして戰線に出て居りまする所の大軍に對して其の任務を完ふさせる樣に補給すると云ふことでありますから、どうしても平時のやうな遣り方ではいけない。仍て產業の編制替へと云ふことが起つて來る。是は歐洲大戰の時も何處の國でも行つたことでありますが、此の時に當つて最も重大な事は勞働强化の問題であります。時局軍需資材の大量補給を全うする爲生產力の飛躍的擴充を圖りますのに、機械の增設も勿論必要でありますけれども、是は右から左に直ぐ出來るものではないから何うしても勞働强化に依り生產力を增すと云ふことは避くべからざることであらうと考へるのであります。此の點に就て吾々の苦心する所は

熟練工の問題

であります。

是は平時から熟練工を養成して置かねばならぬ。それから、勞働力に不足なからしむるやうに確たる機關を作り、勞働の斡旋や統制をなす中央地方の各機關がちやんと揃つて居らなければならぬ、此の邊のことに就きましては事變前から、此處にお見えになつて居る企畫廳、資源局、內務省等の方面の方々と協力を致しまして、問題の解決に步を進めようとして居つた途端に今次の事變が起つたのであります。それで熟練工の問題に就きましては御存じの通りに文部省、商工省及び內務省に於て若干の豫算を以て最初に打つ一手だけは打たれた形でありますが、現在の時局に於てはまだ〱是では不充分であります。それから勞働力の不足を補ふために斡旋調整の中央地方の機關を設備致しまして、そしてムラなく質の良い者を募ると云ふことに就ては、是亦、企畫廳、資源局等、特に內務省の御盡力に依り陸軍、海軍の官營工廠と同じやうに民間の軍需工業に對しましても、人の募集斡旋の勞を採られることになつて居るのであります、是等の準備は大分整ひましたが、併しまだ色々な所に不都合、不自由、不便が起つて來るであらうと考へるのでありまするが、特に內務省の御配慮に依りまして全國に聯絡網を張り、中央には軍需工業勞務の統制機關が出來、各府縣には軍需工業勞務斡旋部と云ふものが出來たのであります。斯くして急速に今次の事變に應ずる勞働力供給に就て其の陣容を整へたのであります。

又

勞働强化の問題

は昨日も私は勞働團體の方々にも申したのでありますが、實際に於ては勞働强化と云ふものが度を過ぎると甚だ危いものであらうと思ふ、勞働を强化しても體力が消耗するから、其の度を過ぎると能率が下り、仕事の質も惡くなり不合格品が出來る、或は病人が出來たり怪我人が出來る、と云ふやうなことになる。歐洲大戰の當時、一九一六年、開戰第三年の春はドイツでは勞働强化が最高潮に達した時であつたが、其の當時の勞働方面に對する學者の批評を見ると「餘りに勞働强化が極端である、是は如何に考へても合理的とは考へられぬ、此の狀態が長く續けばドイツの生產機構は潰れて了ひはせぬか」と云ふことを前提に述べて居るのでありますが「併し乍ら、歸つて考へて見ると是も必要と云ふことに歸着する、今日ドイツの尨大なる戰線に軍需品を送る爲には勞働强化に依るより外はないから必要已むを得ない」と云ふやうな結論をしてゐるのであります、戰線が擴大致しまして更に戰爭が長引くと云ふことになると、益々軍需品の供給が增加する。さうすると勞働强化も段々激しくなる狀況にならうと思ふ。然し勞働强化の結果、體力を消耗し能力が衰へると云ふことにまで立至ることに就ては大に憂慮しなければならぬ。それは事業家に於ても相當に考慮になつて居ることで其の限度は充分お考へがあることゝ思ふのであります。就きましては私共の造兵廠などで採つてゐる手段としては、殘業居殘りの習慣もさることながら大事な時に勞働力の不足を補ふことが出來ぬやうでは支障があるのであるから大切なる作業の部位には二交代――晝夜交代制を採つて居るのであります。さうして成るべく勞働力を維持して行くことに努めて居る。是等の勞働强化の問題はもう戰爭には避くべからざる附きものであります。皆さんの方でも充分御考慮になつて居ることゝ考へるのでありますが、生產力を擴充する方法と致しましては何れの工場に於きましても個々の能力を充分發揮して行くならば全體の生產力が自ら擧がるのでありまして若し不足のある部分に對して何とか其の部分の勞働力を補强する爲交代制を採用し、而も勞働力を長く繼續させるやうな方法の御工夫を願ひたいと思ふのであります。かゝる點に就きましても、熟練工の養成、技術の練磨と云ふやうな事と不可分の關係が起ると思ひますから、是等は今日から用意してかゝらねばなら